

<新潟県森林・林業基本戦略現場ルポ①>

第1回つなぐプロジェクト推進員等研修

令和4年6月24日(金)に本年度より県内各地での展開される「つなぐプロジェクト」の実行をサポートする推進員を対象にした研修会を開催しました。

1 「つなぐプロジェクト」の展開とコーディネート手法の講義 (コーディネートの実績のある講師による推進員の役割や活動のポイントを習得)

講義①

つなぐプロジェクトの展開について



五十嵐林政課長による、新潟県の森林・林業の現状及び森林・林業基本戦略の概要、つなぐプロジェクトにおける推進員の必要性、期待する役割についての講義。

講義②

コーディネート手法(1)
大白川生産森林組合の間伐
ブナ材の活用



新潟大学名誉教授紙谷智彦氏による、大白川地区での県内初のブナ材の活用を行うスノーピーチプロジェクトをコーディネートした実例についての講義。

講義③

コーディネート手法(2)
村上市の集約化と森林整備



村上市地域林政アドバイザー本間郁朗氏による、村上市での森づくり基本計画の策定にあたっての森林の考え方や集約化手法についての講義。

2 「つなぐプロジェクト」構想へのアドバイスと意見交換 (各プロジェクトを検討するうえでの課題やコーディネートのポイントを意見交換)

①プロジェクトの検討状況発表(8地域)

県地域機関職員、プロジェクト推進員より、各地域におけるつなぐプロジェクトの検討状況を発表。
※つなぐプロジェクト詳細については、内容が決まり次第お知らせします。



②講師アドバイスと意見交換

講義を担当していただいた紙谷氏、本間氏に、新潟大学佐渡自然共生科学センター演習林教授 梶本卓也氏を加え、プロジェクトの検討状況へのアドバイスと意見交換を行いました。



アドバイスをいただいた紙谷氏(右)・梶本氏(中央)・本間氏(左)



講師からのアドバイス



推進員との意見交換

③アドバイス及び意見交換概要

- 地域によっては、スケール(規模)を整理する必要がある。集落や集団の単位は分かりやすく、評価しやすい。
- 地域の山をどうって使っていくか。従来使わなかった部材への活用などが考えられる。
- 丸太を(県外等に)出すだけだとお金が残らない。商品として付加価値を付けて出すことで利益が生まれる。地域で製品を作るのではなく、地域ごとに木の特性に合った製品づくりが必要。

【参考】「つなぐプロジェクト」

森林所有者から消費者までの関係者が一体となって戦略の目指す姿を実現するエンジンとなるプロジェクト

基本戦略では、R10に県内30地区でのプロジェクト展開を目標としている。

「つなぐプロジェクト」のイメージ

